

畜産試験場機能強化に関する基本計画作成業務

仕様書

1 業務の名称

畜産試験場機能強化に関する基本計画作成業務

2 業務の目的

本委託業務は、現場のニーズに対応した試験研究の充実や効率化及び運営コストの低減を図るため、畜産試験研究体制の機能強化及び運営の合理化に関する調査・検討を行い、基本計画を作成することを目的とする。

3 委託の期間

契約締結の日から令和7年12月10日（水曜日）まで

4 業務の範囲（箇所）

業務に係る調査・検討の箇所は、以下のとおりとする（別図1～4）。

- ① 畜産試験場本場（西諸県郡高原町大字広原 5066）
- ② 畜産試験場川南支場（児湯郡川南町大字川南 21986）

5 業務の内容

（1）協議

業務の着手・中間（2回）・完成時の計4回必要な打合せ協議を行うこと。

（2）体制強化の方向性に係る調査・検討

別紙1の「畜産試験研究の体制機能強化に関する基本方針」に基づき、機能強化の方向性（畜産試験場と関係機関の連携強化及び必要な施設整備の方向性）について、県と協議の上、調査・検討する。

（3）体制強化に係る基本計画の作成

5の（2）の調査・検討に基づき必要となる施設整備について、県と協議の上、以下のとおり施設及び設備の仕様や規模、数量等に関する計画を検討する。

- ① 施設の使用条件、法基準を整理・検討し、必要な施設要件を検討するとともに、施設整備の箇所は、必要に応じて業務着手前に現地踏査すること。
- ② 建築工事は、建築物と駐車場の配置計画案及び舗装計画案を作成するとともに、建築物に係る各部屋のレイアウト案、意匠案、構造案を検討すること。

- ③ 畜産試験場本場及び川南支場において建築工事を計画する場合は、基本的にスクラップアンドビルドとして、既存建築物及び設備の解体と新築について検討すること。
- ④ 電気設備工事は、建築工事で設定する建物及び各部屋において、必要設備を検討すること。
- ⑤ 機械設備工事は、建築工事で設定する建物及び各部屋において、必要設備を検討すること。
- ⑥ 水道設備工事は、建築工事で設定する建物及び各部屋において、必要設備を検討すること。
- ⑦ 飼養管理施設工事（建築工事、電気・機械設備工事）は、使用者にもヒアリングを行った上で、畜舎規模や関連設備等の計画を検討すること。
- ⑧ 既存建築物や設備を更新する際は、撤去工事や配管・配線の切り替えを踏まえ、仮設計画を検討すること。
- ⑨ 各箇所の工事工程計画を作成すること。なお、工事工程計画は複数年になる可能性もあるので、県と協議の上、検討すること。
- ⑩ 各箇所のランニングコスト計画を検討すること。

6 支給資料

畜産試験場本場及び川南支場に関し、既存施設の図面を支給するものとする。

7 成果物

（１）次の書類を令和７年９月３０日（火曜日）までに提出すること（各３部）。

- ① 基本計画書（概略版）
- ② 概略設計計算書（建築物の必要緒室、類型・用途、面積・規模）
- ③ 概略計画図
- ④ 概略概算工事費

（２）次の書類を令和７年１２月１０日（水曜日）までに提出すること（各３部）。

- ① 基本計画書
- ② 基本計画図
- ③ 設計計算書（建築物の必要緒室、類型・用途、面積・規模）
- ④ 概算工事費
- ⑤ 飼養管理設備工事の設計委託業務入札用仕様書

畜産試験場及び関連機関の施設配置図

各機関の位置図



畜産試験場及び関連機関の施設配置図

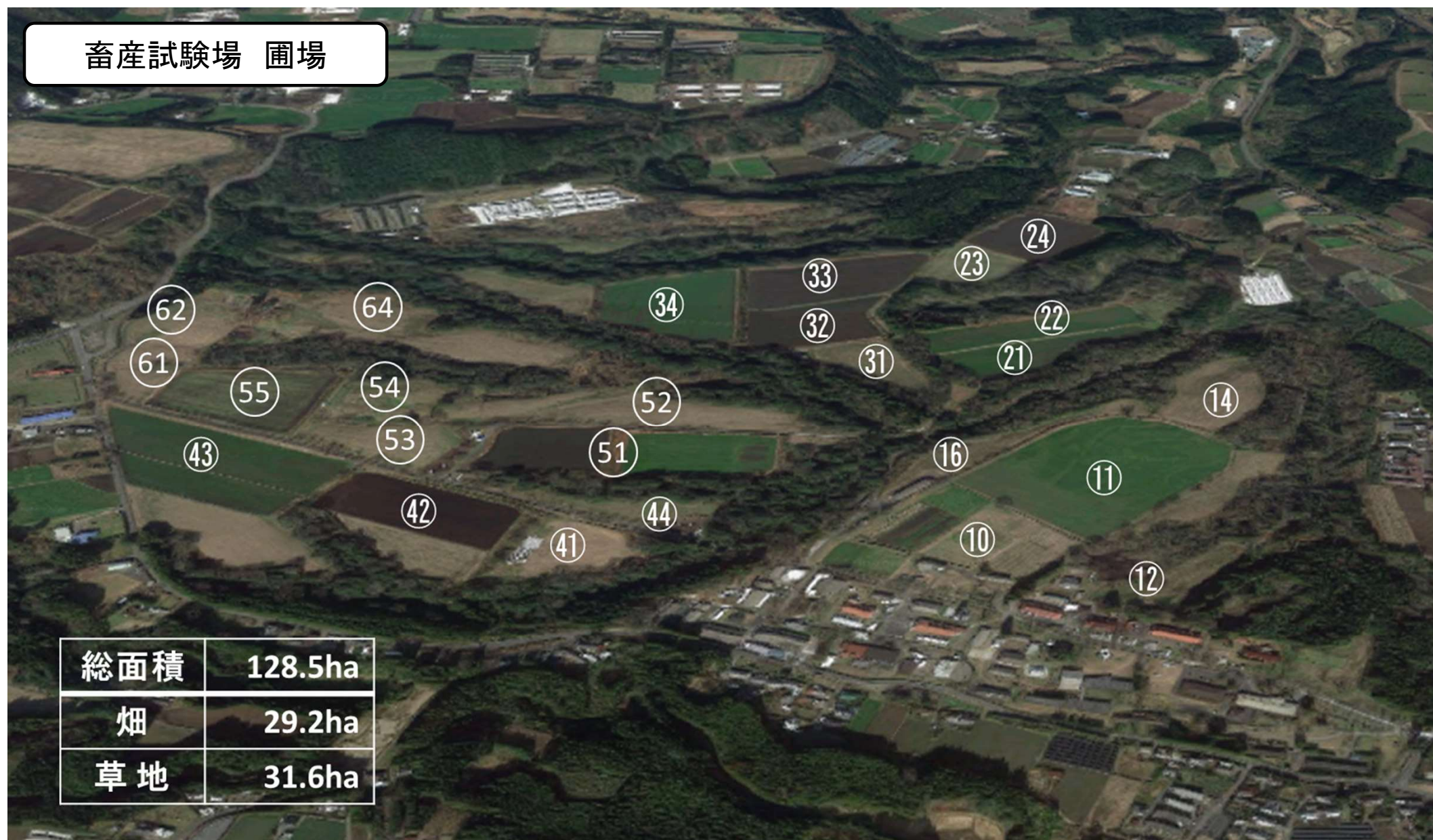


① 管理棟	1980 (43)	⑪ 危険物倉庫	1967 (57)	⑳ 家畜バイオ研究棟	1982 (42)	㉑ 肉用牛部哺育牛舎	1984 (40)	㉒ パーラー(搾乳舎)	1986 (37)
② 研究員棟	1983 (41)	⑫ 大農機具庫	1992 (32)	㉓ 家畜バイオ簡易牛舎	2000 (23)	㉔ 肉用牛繁殖牛舎	1984 (40)	㉕ 酪農成牛舎	1993 (31)
③ 作物調査棟	1980 (43)	⑬ 中農機具庫	1967 (57)	㉖ 家畜バイオ農業資材置場	1993 (31)	㉗ 肥料倉庫	1981 (43)	㉘ 酪農試験牛舎	1995 (29)
④ 車庫	1980 (43)	⑭ 修理工場	1998 (26)	㉙ 家畜バイオ車庫	1996 (28)	㉚ トイレ・シャワー室	2003 (21)	㉛ 酪農育成牛舎	1994 (30)
⑤ 牧友寮(現在未使用)	1967 (57)	⑮ 酪農乾草計量室	1993 (31)	㉜ 家畜バイオ更衣室	2004 (19)	㉝ ガラス温室	1984 (40)	㉞ 酪農衛生舎	1970 (53)
⑥ 酪農研修館(更衣・シャワー室)	1967 (56)	⑯ 家畜バイオ乾草倉庫	1993 (31)	㉟ 家畜バイオ乳用牛供卵牛舎	1993 (31)	㊱ 飼料草地作業舎	1967 (57)	㊲ 廃棄物倉庫	2004 (20)
⑦ 鶏舎(危険分散鶏舎)	2011 (12)	⑰ 新供卵牛舎	2002 (21)	㊳ 肉用牛部休憩室	1983 (41)	㊴ 酪農乾草庫	1967 (57)	㊵ 隔離牛舎	1969 (54)
⑧ 馬小屋(ミニチュアホース)	1993 (31)	⑱ 家畜バイオ屋外トイレ	1998 (26)	㊶ 肉用牛部育成牛舎	1983 (41)	㊷ 酪農作業舎	1969 (54)	㊸ トイレ・シャワー室	1995 (29)
⑨ 農具車庫	1970 (53)	㉑ 家畜バイオ肉用牛供卵牛舎	1990 (33)	㊹ 肉用牛部肥育牛舎	1983 (41)	㊺ 酪農分娩牛舎	1978 (46)	㊻ 防疫施設(タイヤ消毒槽)	2001 (22)
⑩ 小農機具庫	1972 (51)	㉒ 家畜バイオ木造牛舎	1989 (34)	㊼ 肉用牛簡易キット木造牛舎	2004 (19)	㊽ 酪農組立試験倉庫	1978 (46)	㊾ 車両消毒ゲート・記帳所	2003 (21)

名称、設置年、〇は2024年時点の経過年数

住所：西諸県郡高原町大字広原5066

畜産試験場及び関連機関の施設配置図



住所：西諸県郡高原町大字広原5066

畜産試験場及び関連機関の施設配置図

畜産試験場 川南支場

総面積：23.2ha



① 管理・実験棟	2001 (23)	⑥ ウインドレス総合豚舎	1998 (26)	⑪ 焼却施設	2000 (24)	⑤ 育すう舎	1986 (38)	⑮ 系統保存鶏舎	1987 (37)	② 機械棟	2009 (14)
② 車庫・駐輪場	2001 (23)	⑦ 飼養試験舎	1998 (26)	⑫ 放飼場	2001 (23)	⑥ 新ふ卵舎	2013 (10)	⑯ 現場詰所	1987 (37)	③ 環境調査室	1998 (26)
③ 現場詰所	2001 (23)	⑧ 組み合わせ豚舎	1998 (26)	⑬ 家畜衛生試験舎	2000 (24)	⑦ ふ卵舎	1986 (38)	⑰ と体調査室	1986 (38)	④ 環境保全試験舎	1998 (26)
④ 燃料倉庫	2001 (23)	⑨ 種豚舎	1999 (25)	⑭ 観察舎	2000 (24)	⑧ 倉庫実験室	1987 (37)	⑱ 衛生試験舎	1987 (37)	⑤ 総合糞尿処理施設	1985 (39)
⑤ 第一ターミナル	2001 (23)	⑩ 分娩豚舎	1999 (25)	⑮ 解剖室	2000 (24)	⑨ 展示鶏舎	1987 (37)	⑲ 原種鶏舎	2008 (16)	⑥ 清浄豚舎消毒施設	2000 (24)
⑥ 消毒ゲート(正面)	2001 (22)	⑪ 子豚舎	1999 (25)	⑯ 導入舎	2000 (24)	⑩ 消毒ゲート	1986 (38)	⑳ 隔離鶏舎	1987 (37)	⑦ 堆肥舎	2000 (24)
⑦ 休憩室	1999 (25)	⑫ 堆肥舎	1999 (25)	⑰ 消毒ゲート	2001 (23)	⑪ 更衣室	2008 (16)	㉑ 日本種鶏維持舎	1999 (25)	⑧ 清浄豚作豚舎	2000 (24)
⑧ 消毒施設	1999 (25)	⑬ 育成豚舎	1999 (25)	⑱ 肥育検定舎	1986 (38)	⑫ 卵用鶏検定舎	1986 (38)	㉒ 日本種鶏維持舎	1999 (25)	⑨ ターミナル	2000 (24)
⑨ 消毒ゲート(養豚)	2001 (22)	⑭ 検定豚舎	2000 (24)	⑲ 肉用鶏試験舎	1986 (38)	⑬ 卵用鶏試験舎	1986 (38)	㉓ 日本鶏系統保存鶏舎	1999 (25)	⑩ 清浄豚試験豚舎B	2000 (24)
⑩ 飼料等倉庫	1998 (26)	⑮ けい留舎	2000 (24)	⑳ 種鶏育成舎	1986 (37)	⑭ 肉用種鶏検定舎	1986 (38)	㉔ ウインドレス鶏舎	2000 (24)	⑪ 清浄豚試験豚舎A	2000 (24)
⑪ 払い下げ豚舎	1998 (26)	⑯ 食肉試験室	2000 (24)	㉑ 卵用鶏育成舎	1986 (38)	⑮ 飼料倉庫	1986 (38)	㉕ 尿汚水浄化処理施設	1998 (26)		

名称、設置年、(1)2002年時点の経過年数

住所：児湯郡川南町大字川南21986

畜産試験研究の体制機能強化に関する基本方針

1 畜産試験場の現状

- (1) 畜産試験場は、畜産農家の技術的な課題を解決し、本県畜産業の振興を図るため、大正 9 年に創設（現施設は昭和 58 年に設置）。
- (2) 現在の畜産試験場（別紙 2）は、本場（高原町）及び 1 支場（川南町）の体制。

2 畜産試験研究を取り巻く情勢

- (1) 技術革新の進展
 - ①飼料等の物価高騰による景気低迷や畜産従事者の減少、高齢化の進行に対応したスマート畜産業の推進
 - ②食の安全・安心とともに、おいしさや健康などを求める新たな消費者ニーズに対応した技術開発
- (2) 研究課題の横断化・多様化
 - ①試験研究のニーズは大規模経営から小規模経営まで幅広く、課題も多様化
 - ②畜舎等の環境制御や高栄養飼料作物の検討など分野横断的な研究が必要
 - ③近年コンソーシアム型の試験研究が増加しており、国や大学、民間企業等との連携が不可欠
- (3) 新たな施策課題への対応
 - ①国際情勢等に伴う飼料生産・価格の不安定化への対応として、生産体系技術の確立や飼料自給率向上に向けた取組等が必要
 - ②近年深刻化している気候変動や新奇病害虫等への迅速な対策技術の確立が必要
 - ③改正食料・農業・農村基本法の基本理念を踏まえ、農家減少下での食料の安定供給や環境保全型畜産、脱炭素畜産業の実現に向けた新技術の開発等に取り組む必要
- (4) 成果の迅速な普及
 - ①畜産業を取り巻く環境が急速に変化する中で、新たに開発された技術を速やかに普及するため、普及センターとの連携強化が必要
- (5) 働き方改革・しごと刷新の推進
 - ①職員確保の困難化が懸念される中、全庁的な働き方改革・しごと刷新の取組を踏まえ、限られる研究資源（ヒト・モノ・カネ）で最大の成果を生み出すことが重要
 - ②人材育成（研究技術の継承）、試験研究に係るコスト削減の観点にも留意しながら、

研究員が能力を発揮しやすい効果的かつ効率的な研究体制を再構築する必要

3 機能強化の考え方

(1) 研究資源の選択・集中

バイオマス等家畜排せつ物の有効利用や国産濃厚飼料の増産、スマート化など畜種横断的な重要課題に対応し、フィールド試験に展開できるよう研究内容を選択・集中し、家畜防疫機能を強化

(2) 現地・関係機関との連携

技術革新の進展や新奇病害虫の発生、異常気象が相次ぐ等、これまで以上に迅速な課題解決が求められており、かつ成果の早期普及に向け、普及センターやＪＡをはじめとする関係団体、市町村はもとより、国や大学等と積極的に連携し、場内のみならず、県全体を試験フィールドとする現地試験を展開

(3) 実践・指導人材の育成

大学や民間企業との連携（オープンイノベーション化）による研究員のスキルアップや人材育成・教育への貢献、生産者・技術指導者（ＪＡ等）との研修・交流による課題解決のための高度な知識と技術を有する実践人材及び指導人材の育成拠点の構築

(4) 遺伝資源の保存

改良に必要な県産和牛精液とみやざき地頭鶏原種鶏（危険分散鶏）の保存

(5) 防災機能の強化

台風や地震等の自然災害に備え、家畜の飲水を確保するための井戸や水道設備の強化及び喚起施設等を稼働させるための自家発電機の設置

(6) 防疫機能の強化

近年頻発する家畜伝染病を予防するため、防疫機能をより一層強化

畜産試験場の概要

宮崎県畜産試験場の概要については、以下のホームページを参照。

URL : <https://www.pref.miyazaki.lg.jp/chikusan-shikenjo/index.html>